

☆☆夏季被災地再生支援ボランティア活動を実施しました☆☆

学生部では、昨年に引き続き、夏季休業期間中において被災地支援ボランティア活動を行いました。今回は、昨年度夏季・GW に続き、信行寺・浅野弘毅氏企画の他、大学間連携における東北学院大学主催の企画、被災地支援ネットワーク学生団体の各活動など、16ものプロジェクトを実施しました。宮城県気仙沼市大島、面瀬地区、岩手県陸前高田、宮古市など活動場所も多岐にわたり、内容についても清掃活動、仮設コミュニティ支援、学習支援、農業の復興支援など様々なものでした。

1. 活動概要

(1) 信行寺主催／夏季大島ボランティア

活動期間	第1クール 8月28日(火)～31日(金) 第2クール 9月3日(月)～6日(木)
活動地	宮城県気仙沼市大島
活動内容	椿の植樹、海岸清掃、遊歩道の整備
参加者	第1クール：学生21名 引率教職員1名 第2クール：学生24名 引率教職員1名 合計(延べ人数) 学生45名 引率教職員2名
主催	宗教法人・信行寺

(2) 東北学院大学主催／震災と向き合う夏合宿(気仙沼市・山元町)

活動期間	(1) 気仙沼市 第1クール 8月6日(月)～10日(金)・第2クール 8月13日(月)～17日(金) 第3クール 8月15日(木)～18日(日)・第4クール 8月27日(月)～31日(金) 第5クール 9月3日(月)～7日(金)・第6クール 9月10日(月)～14日(金) (2) 山元町 第1クール 8月5日(日)～7日(火)・第2クール 8月19日(日)～22日(水) 第3クール 8月26日(日)～29(水)
活動地	宮城県気仙沼市、山元町
活動内容	瓦礫の撤去、遊歩道の整備
参加者	(1) 気仙沼市(学生) 第1クール：1名 第2クール：2名 第3クール：6名 第4クール：1名 第5クール：0名 第6クール：5名、職員1名 (2) 山元町(学生) 第1クール：9名 第2クール：4名 第3クール：1名 合計 学生 29名 引率職員1名
主催	東北学院大学

(3) 東北学院大学主催／七ヶ浜仮設支援

活動期間	8月11日(土)～12日(日)
活動地	宮城県七ヶ浜仮設
活動内容	足湯ボランティア
参加者	学生3名
受入先	NP0 法人レスキューストックヤード

(4) 東北学院大学主催／仙台津波復興支援センター

活動期間	第1クール8月8日(水)～10日(金)・第2クール8月20日(月)～23(金) 第3クール9月6日(木)～9日(日)
活動地	宮城県仙台市
活動内容	瓦礫の撤去作業
参加者	(学生) 第1クール：2名 第2クール：2名 第3クール：2名
受入先	仙台津波復興支援センター

(5) 東北学院大学主催／ReRoots での活動

活動期間	9月6日(木)～9日(日)
活動地	宮城県仙台市
活動内容	農業再生支援
参加者	学生4名
受入先	ReRoots

(6) 東北学院大学主催／仙台七夕まつり運営

活動期間	8月7日(火)～8日(水)
活動地	宮城県仙台市
活動内容	七夕まつり運営スタッフ
参加者	学生12名
受入先	仙台商工会議所

(7) 学生団体／チーム次元

活動期間	8、9月 6クール実施
活動地	宮城県気仙沼市大島
活動内容	漁業支援
参加者	(延べ人数) 学生21名
受入先	小松氏(大島在住、漁業)

(8) 学生団体／はまらいんや

活動期間	8、9月 4クール実施
活動地	宮城県気仙沼市面瀬地区
活動内容	仮設コミュニティ支援
参加者	(延べ人数) 学生 13 名、教員 1 名
受入先	黒田裕子氏 (特定非営利活動法人 阪神高齢者・障害支援ネットワーク理事長)

(9) 学生団体／はまぎくのはつぼみ

活動期間	8、9月 4クール実施
活動地	岩手県宮古市
活動内容	学習支援、仮設コミュニティ支援
参加者	(延べ人数) 学生 21 名、職員 2 名
受入先	宮古市社会福祉協議会

(10) 学生団体／面瀬学習支援班

活動期間	8月18日(土)～26日(日)
活動地	宮城県気仙沼市面瀬地区、上沢三区自治会館
活動内容	学習支援
参加者	学生 10 名
受入先	面瀬小・中学校

(11) 学生団体／「熱血気仙塾！」陸前高田支援チーム

活動期間	8月、2クール実施
活動地	岩手県陸前高田市
活動内容	観光復興支援、農家のお手伝い等
参加者	学生 9 名、教員 1 名
受入先	武蔵和敏氏 (陸前高田市在住、建築業)

(12) 学生団体／卓球同好会

活動期間	8月20日(月)～22日(水)
活動地	宮城県気仙沼市面瀬中学校
活動内容	スポーツ指導支援
参加者	学生 11 名
受入先	面瀬中学校

(13) 学生団体／チーム杉村

活動期間	8月26日(日)～29日(水)
活動地	宮城県仙台市
活動内容	瓦礫の撤去等
参加者	学生12名、引率教員1名
受入先	仙台津波復興支援センター

(14) 学生団体／新原ゼミ有志ボランティア

活動期間	8月30日(木)～9月1日(土)
活動地	宮城県石巻市、長面浦
活動内容	瓦礫の撤去等
参加者	学生5名
受入先	特定非営利活動法人 DSP 災害支援プロジェクト

(15) 学生団体／Chuo Support 3.11

活動期間	9月5日(水)～9月8日(土)
活動地	宮城県気仙沼市大島
活動内容	漁業支援
参加者	学生5名
受入先	小松氏(大島在住、漁業)

※参加者合計(延べ人数) 学生 206名 教職員8名

2. 参加学生からの声

☆正直それほど、深い考えもなく参加したボランティアであった。しかし、実際に被災された漁師の方のひたむきさや明るさに触れられ、これからは勇気づけられるような貴重な体験ができた。(経済学部/3年)

☆実際目で被災地を見て、まだまだ復興が進んでいない現状と生々しい爪跡に心が痛くなった。テレビで見るのとは全く重さが違った。(経済学部/3年)

☆毎回異なる方々がボランティアの拠点に集まり、精力的に活動していく姿は、自らにボランティアの継続性の重要性を説いてくれた。(文学部/2年)

☆足湯ボランティアは、足をお湯につけてもらいながら手のマッサージをし、お話をしながら心のケアを行うものでした。僕たちはマッサージのプロではないので現地の方に丁寧にマッサージの仕方を教えていただいたのですが、とても優しい方々でした。震災のことを話していただき、話すことで少しでも心の安らぎになって頂けると嬉しいです。仮設住居の方と話すことによって非常に胸が苦しく思うこともあり、自分に還元してしまうのはあまり良くはないと思うのですが、自分の生活のありがたみが分かりました。今後も力になりたいです。
(経済学部/3年)

☆初めて実際に被災地へ赴いた支援活動を経験した。分からないという不安を抱えたまま活動に臨んだが、仮設の住民の方々は物腰が柔らかく温かく迎えてくださった。積極的に会話を交えてきてくださっているところからもやはり不安定な心境での生活の中で、ボランティアという新鮮な話し相手の存在は彼らの心を元気付ける上で重要な役割があるのだろうと感じた。
(法学部/1年)

☆活動を企画し、運営する難しさ、端々での詰め甘さが目立ったように思う。本当に必要とされていることは何か、表出していないニーズは何かを話し合いながら再考したい。
(法学部/3年)

3. フォトレポート



椿の植樹活動



海岸の清掃



海岸の清掃



横断幕の作成



仮設コミュニティ支援活動



被災地の様子



椿の植樹活動



被災地の様子



仮設コミュニティ支援活動



ミーティングの様子